

## 6. 新型コロナウイルス感染症クラスターを経験して ～BCP作成に活かす～

介護老人保健施設 錦秀苑

理学療法士 高田勇吾（たかだ ゆうご）

共同発表者 西川知佐

当苑が経験した新型コロナウイルス感染症「以下、コロナという」クラスターの発生とその時のリハビリ職員の動き、そして反省を活かしたBCPの作成について報告する。

当苑は入所定員 100 名、デイケア、訪問リハも併設している施設である。クラスターが発生する 2022 年年末時点での空きベッドは 11 床であった。

2022 年 12 月 28 日から 1 月 30 日までの間、利用者は 2 階 19 名（25 名中）、3 階 19 名（29 名中）、4 階 5 名（35 名中）の計 43 名（89 名中）がコロナに感染した。1 月末時点での空床は 12 月末時点での空きベッド 11 床に合わせ退所が 9 名、入所が 2 名で合わせて 18 床にまでなった。看護・介護職員の感染は 2 階 11 名（12 名中）、3 階 5 名（12 名中）、4 階 2 名（15 名中）と管理職 2 名の計 20 名であった。この時期はコロナ流行の第 8 波の時期であり詳しい感染経路や因果関係は不明である。

年末に初め 2 階 3 階にて利用者・フロア職員がコロナに感染、その後 2023 年 1 月 1 日時点で利用者 6 名が感染、その後感染が拡大した。4 階は 1 月 10 日に利用者が感染、その後も数名感染するも最後に感染された方以外は随時 2 階 3 階にベッドを移し対応した。

2・3 階のリハビリ職員は、1 月 4 日よりリハビリを行わずフロア業務の支援に入る。9 日より 1 週間デイケアが休止となった為、デイケアのリハビリ職員が 3・4 階の支援に入る。4 階の元々の介護職員は夜勤を含む 2・3 階の業務を行う。4 階は 1 月 10 日に感染が確認され、当施設すべてのリハビリが中止となる。

その後 1 月 16 日よりデイケアが再開、入所フロアのゾーニングのグリーンゾーンのみ廃用予防を目的にリハビリ再開する。4 階リハビリ職員はほぼリハビリのみを行う。2 階担当のリハビリ職員はリハビリ優先し、3 階リハビリ職員は看護補助、介助支援を優先に行いながらリハビリも行う。1 月 30 日にはリハビリ職員全員が通常業務に戻る。

このクラスター発生中に基本動作能力等が著しく低下したと考えられる入所者は、20 名（82 人中）であった。さらに 2 週間が経過しても回復が見られず以前の基本動作まで戻らなかった入所者は 5 名（3 階 3 名、2 階 2 名）であった。いずれもクラスター以前より能力が低下傾向やリハビリの拒否傾向がみられる利用者であった。

この経験を活かして「BCP 新型コロナ感染症編」を作成した。人員の確保は施設内の職員の業務シフトや配置転換にて対応する。補えない場合は、法人内からの支援、自治体や関係団体に依頼する。次にサービス提供の優先順位として、利用者の健康・身体・生命を守る継続業務を優先し、追加業務、削減業務、休止業務を選定した。

今回リハビリ職員は職員数や業務の優先順位を判断し、リハビリか看護補助、介助支援を行うのか判断しなければならない事を実感したことから、リハビリは削減業務と分類し、職員の出勤率 30%ではリハビリを休止、50～70%では褥瘡・拘縮予防を中心に行う。90%ではほぼ通常通りに行うと定めた。